

第27回 国土交通大臣 「登録機械土工基幹技能者講習」試験問題

一般社団法人 日本機械土工協会

試験の注意事項

- 1 試験は、すべての会場において、同時刻に一斉に行う。
- 2 試験の日時は、令和3年12月12日（日）、13時30分から15時00分までとする。
- 3 試験開始後30分間を経過するまでは、退出することを認めない。30分経過後は退出可能となるが、一旦退出した者の再入室は認めない。
- 4 試験時間の途中で退出する場合は、問題用紙、解答用紙、受講票を机の上に置いたまま、退出すること（解答用紙は伏せて置くこと）。
- 5 試験問題の持ち帰りは認めない。
- 6 試験問題は、問題1から問題30までの30問からなる。
- 7 試験問題への解答は、正答と思われるものを1つ選び、以下の事項に留意の上、解答用紙の解答欄にマークすること。
 - ① 解答欄へのマークは、解答用紙の上部に記載例の「可」とされているように、HB（又はB）の鉛筆又はシャープペンシルで、マーク欄を丁寧に塗りつぶすこと。塗りつぶし方が悪い場合、無答扱いとして不正解となる場合がある。
 - ② 1つの問題に対し2箇所以上の箇所にマークした場合は、無答扱いとして不正解となる。
 - ③ 誤って違う箇所にマークした場合は、誤ってマークした箇所を消しゴムで丁寧に消すこと。消し方が十分ではない場合は、2箇所以上の箇所にマークしたものとみなされ、無答扱いとして不正解となる場合がある。
- 8 試験時間中は、監理者（試験立会者）の指示に従うこと。
- 9 試験場では、テキストやその他の参考書類の使用（机の上に置くことを含む。）を禁止する。
- 10 試験時間中は、携帯電話、PHS等すべての通信機器類の電源を切り、鞆等にしまうこと。通信機器類を時計代わりとして使用することは認めない。
- 11 本試験では、電卓は使用できない。
- 12 試験時間中に不正行為を行った場合は、その時点で失格として退場させる。
- 13 試験問題の内容に関する質問（誤字・脱字の確認、漢字の読み方等を含む）には一切応じない。

[問題 1] 「登録基幹技能者制度」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 登録基幹技能者とは、熟達した作業能力と豊富な知識を持つと共に、現場をまとめ効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者で、国土交通大臣が登録した機関が実施する登録基幹技能者講習を修了した者をいう。
- (2) 登録基幹技能者は、いわゆる上級職長などとして、現場における高度なマネジメント業務を担い、工事全体の計画・管理業務に参画し、補佐することが期待されている。
- (3) 建設キャリアアップシステムでは、技能者の能力評価基準を定めており、経験、保有スキル・資格、マネジメント能力によって4つのレベルに区分けしているが、登録基幹技能者は、上位レベルから2つ目の「レベル3 職長・熟練技能者」に位置付けられる。
- (4) 登録基幹技能者がその役割を遂行するためには、「十分な経験を有し、熟達した作業能力」、「技術の進展等に的確に対応した知識」、「現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力」等の幅広い分野における多彩な能力が求められる。

[問題 2] 次の記述のうち、「OJTを実施する上で留意すべき事項」として**適切でないもの**はどれか。

- (1) OJTとは、職場の上司が部下の育成のために、日常の仕事を通じて行う指導・教育のことであり、「OJTは、上司である自分の仕事そのものである。」という認識を持つ必要がある。
- (2) 指導する上で大切なことは、「部下が自分で考え工夫して仕事をするようにさせる」ことではなく「指示通りやらせ、指示した通りできたかどうかを確認して評価する」ことである。
- (3) OJTを行う際の目標設定に於いては、「定量的かつ具体的」で、「部下が意欲を持って取り組める」ような目標を設定する必要がある。
- (4) 指導・育成の基本は、部下が進んで自己啓発に励むように動機づけすることである。

[問題 3] 「部下に対する効果的な指導方法」として**適切でないもの**はどれか。

- (1) 仕事の指示・命令を与えながら、仕事の成否を分ける急所やコツをていねいに教える。
- (2) 知識・実例・体験の三位一体で教える。
- (3) 覚えたい気持ちにさせた上で、知っていることから知らないことに進み、覚えたかどうか確かめる。
- (4) 奨励型ではなく、禁止型で叱る。禁止型を発展させれば、仕事のヒントが語れる。

[問題 4] 「土工作业」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) ダウンヒルカット工法は、傾斜を利用してスライスカットしながら掘削する方法であり、スクレーパ工法やブルドーザによる掘削工法となる。
- (2) 岩掘削においては、軟岩は発破、硬岩はリッパによる掘削が基本である。しかし、発破が制限される場所では、ブレーカ等の無発破工法が採用される。
- (3) 深礎工法は、地すべり抑止杭として山岳地や傾斜地、狭い場所に用いられることが多い。
- (4) オープンケーソン工法は、中空のコンクリート構造体（井筒）を据付け、内部をクラムシェル等で掘削して井筒を沈下させて、井筒を継足しながら基礎地盤まで掘削を進める方法である。

[問題 5] 「土止め壁の種類と特徴」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 柱列式連続壁は、剛性は比較的高いが、止水性が無いため、地盤変形が問題となる場合に適する。
- (2) 親杭横矢板土止め壁は、止水性はあるが、たわみ性壁体のため、変形が大きい。
- (3) 鋼矢板土止め壁は、止水性が低く、土止め板と地盤との間に間隙が生じ易いため、地山の変形が大きくなる。また、根入れ部分が連続していないため、軟弱地盤への適用には限界がある。
- (4) 地中連続壁は、止水性がよく剛性が高い。又、施工のための騒音、振動は小さいが、泥水処理施設のための広い施工スペースを必要とする。

[問題 6] 「ヒービング現象」に関する次の記述中の、**(ア)～(イ)**に当てはまる語句の組合せとして、**適切なもの**はどれか。

(ア)の掘削においては、ヒービングの発生に留意する。これは、掘削進行により土止め壁背面の土の重量が掘削底面の地盤支持力よりも**(イ)**なったときに、背面土砂が土止め壁の内側に流動して底面がふくれ上がる現象である。

- (1) (ア) 粘性地盤（特に軟弱地盤） (イ) 大きく
- (2) (ア) 砂質地盤 (イ) 大きく
- (3) (ア) 粘性地盤（特に軟弱地盤） (イ) 小さく
- (4) (ア) 砂質地盤 (イ) 小さく

[問題 7] 「作業手順書の作成及び活用上の留意点」に関する次の(ア)～(ウ)の記述のうち、適切な記述はいくつあるか。

- (ア) 現場の実情に合ったものであり、労働安全衛生法などの法令に違反していないものとする必要がある。
- (イ) できるだけわかりやすく具体的で詳細に表現し、急所の数は3項目以上で出来るだけ多い方が良い。
- (ウ) 安全上の不具合が生じた場合は、作業手順書を見直し、原因となった部分を改善する。

- (1) 適切な記述はない
- (2) 1つ
- (3) 2つ
- (4) 3つ

[問題 8] 「機械土工の施工計画の流れ」に関する次の記述中の、(ア)～(エ)に当てはまる語句の組合わせとして、適切なものはどれか。

運土計画のプロセスでは、地形図から土量計算を行い、土量分布を把握してから、土量配分計画を作成する。土量配分が決定すると、運土経路を設定して運土距離とその(ア)を求め、これ等を作業単位(工種)として、機械計画を立てる。機械計画では、これらの工種に適した組み合わせ機械を選定し、それぞれの(イ)を行い工種別の(ウ)を求める。この機種選定の際には、特に地形と土質との適性を考慮する。続けて機械を工程表の時間軸に割り振って、実際の(エ)を決定する。

- (1) (ア) 稼働可能日数 (イ) 走路線形設定 (ウ) 距離別運土量 (エ) 実行予算
- (2) (ア) 運土量 (イ) 機械能力計算 (ウ) 必要延べ台数 (エ) 投入台数と投入時期
- (3) (ア) 必要延べ台数 (イ) 原価計算 (ウ) 原価 (エ) 実行予算
- (4) (ア) 運土量 (イ) 機械の調達 (ウ) 原価 (エ) 投入台数と投入時期

[問題 9] 「現地踏査」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 現地踏査の調査項目には、自然条件、環境制約、仮設備の設置場所、工事用道路、重機搬入路等がある。
- (2) 現地踏査では、地形、地質、土質を目でよく確認し、想定した土工機械や工法が可能か検討する。
- (3) 現地踏査では、設計図書等に示された内容の確認や不明点を調査し、現地の実態を正しく把握する。
- (4) 周辺の人家、学校、病院等の状況については、設計段階で調査が終わっており、現地踏査により改めて調査する必要はない。

[問題 10] 「運土計画」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 土量計算において道路工事のような線土工では、等高線法を利用すると線状の土量分布を把握でき、横方向及び縦断方向の土量配分が可能となる。
- (2) 平均断面法による土量計算では、隣合う断面の切土と盛土のそれぞれの断面積の平均に距離を乗じて区間体積を求める。断面積は、プランメータや三斜法で求めることができる。
- (3) 土量配分計画でも運土形態に適した土量配分を行い、面土工ではマスカーブ、線土工ではコンピューターによる線形計画法による最適土量配分が利用される。
- (4) 線土工では、格子状に土量分布をとらえて、総仕事量(Σ (土量 \times 運土距離))が最小となるように配分する。

[問題 11] 土量換算係数 f を用いて求められる、地山土量、ルーズ（ほぐした）土量、締固め土量の関係に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

土量の変化率は次の通りであるものとする。

$$L \text{ (ルーズ土量/地山土量)} = 1.3$$

$$C \text{ (締固め土量/地山土量)} = 0.8$$

- (1) 締固め土量が 480 m^3 のとき、ルーズ土量は 780 m^3 である。
- (2) 地山土量が 560 m^3 のとき、ルーズ土量は 700 m^3 である。
- (3) 締固め土量が 640 m^3 のとき、地山土量は $1,040 \text{ m}^3$ である。
- (4) ルーズ土量が 800 m^3 のとき、締固め土量は $1,300 \text{ m}^3$ である。

[問題 1 2] 「土の性質」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 土の飽和度とは、土の間隙中の水がどの程度間隙を満たしているかを百分率で示したものであり、飽和度が50%以上の状態の土を飽和土と称する。
- (2) 土丹の泥岩は、リッピング等の掘削時に大塊となり、盛土時に空隙を生じやすい。塊状泥岩は乾燥後、雨水等の吸収により細粒化して、シキソトロビー現象により不等沈下の原因となる。
- (3) 土を締固める場合、一般に締固めエネルギーを大きくすれば密度が高くなり強度等が改善されるが、高含水比粘性土等を締固めた場合、締固め回数を増加しても締固まらず、こね返しにより強度低下を来すことがある。
- (4) 土の密度は、土粒子・水及び空気を含めた単位体積当たりの質量を表すが、単位体積当たりに含まれる土粒子の乾燥質量を湿潤密度という。

[問題 1 3] 「掘削作業」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) クラムシェルは、二枚貝で挟み込むような方式で、掘削力が非常に強いため、揚程が無い場合の掘削に用いられる。
- (2) 地盤硬さの物差しとしては、一軸圧縮強度や弾性波速度が用いられる。弾性波は、軟らかい物質では速く、硬い物質では遅く伝わる性質があり、この性質を利用すると岩塊の硬さがわかる。
- (3) 切削系の掘削機には自由断面掘削機、面掘削機とトレンチャがあり、自由断面掘削機は主にトンネル工事用である。
- (4) 静的破砕剤工法は、蒸気圧破砕工法と比較すると瞬時に破砕でき、現場の環境温度に左右されない利点がある。

[問題 1 4] 「積込み作業」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか

- (1) 破碎岩の積込みにおいては、細粒分が潤滑剤の役目を果たすため、細粒分が不足すると荷の入りが悪くなるので、破碎状態と破碎粒径に注意が必要である。
- (2) バックホウで積込む場合のベンチ幅は、ダンプトラックの最小回転半径の3倍以上が必要である。
- (3) スクレーパの積込みは、プッシュドーザを付け積込時間の短縮を図る。
- (4) バックホウの積込みには、下段にダンプトラックを配置するボトムローディングと同一フロアで積込むトップローディングがあり、通常は積込効率の良いトップローディングで行う。バックホウがベンチの上段に乗り、ベンチ高さを荷台の高さに合わせると最適となる。

[問題 1 5] 「建設機械の運搬性」に関する次の (ア) ~ (ウ) の記述のうち、**適切な記述の組合せ**はどれか。

- (ア) 経済性を考慮する場合、モータスクレーパはブルドーザより長距離の運搬に適している。
- (イ) 建設機械の軟弱地での走破性をリップビリティと言い、コーン指数 q_c が判定の指標となる。
- (ウ) ブルドーザの車両質量と接地圧の関係を見ると、普通ブルドーザは車両質量に比例して接地圧も大きくなるが、湿地ブルドーザや超湿地ブルドーザは、車両質量が大きくなっても接地圧はあまり増加しない。

- (1) (ア) 及び (ウ) は適切な記述であるが (イ) は不適切な記述である。
- (2) (ア) は適切な記述であるが (イ) 及び (ウ) は不適切な記述である。
- (3) (ア)、(イ)、(ウ) 共に適切な記述である。
- (4) (イ) 及び (ウ) は適切な記述であるが (ア) は不適切な記述である。

[問題 1 6] 「ブルドーザの掘削押土」に関する次の記述中の、**(ア)**～**(イ)**に当てはまる語句の組合せとして、適切なものはどれか。

掘削押土作業は、**(ア)**を利用して作業効率を上げる。押土勾配は20%程度の勾配が最も生産性が高くなる。また、排土板の横から荷（土砂）が逃げないように、スロットドーピングで行う。スロットドーピングによる押土は、**(イ)**程の生産性アップが期待できる。

- (1) (ア) 下り勾配 (イ) 2割
- (2) (ア) 上り勾配 (イ) 2割
- (3) (ア) 下り勾配 (イ) 8割
- (4) (ア) 上り勾配 (イ) 8割

[問題 1 7] 「工程計画の作成」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 工程計画を作成するには、まず、必要施工速度を捉えておく必要がある。
- (2) 建設機械の必要延べ台数は、工種毎の土工量を「機械の作業能力×稼働時間」で割れば求められる。
- (3) 施工速度 (m³/月) は、土工量 (m³) ÷ 工期 (月) で求める。
- (4) 稼働可能日数を算定するための降雨による休止日数は、地域や季節による違いは見られるが、現場の土質による違いは見られない。

[問題 1 8] 「施工管理」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 一般に請負とは、発注者の要求する所定の工事を、その図面及び仕様書に基づき、所定の期日までにこれを完成して引渡し、その代金を受け取ることを言い、「工事の目的物」、「工期」、「工事請負代金」のことを、請負工事の3要素という。
- (2) 近代工場生産における科学的管理手法は建設業にも有用であり、経験と勘による個人的なものより科学的データに基づき、組織的で合理的な手順を標準化する等の近代的管理技術を活用した施工管理手法が必要である。
- (3) 管理活動の基本は全て「計画→実施→検討→処置」の循環活動によって行われるべきもので、この4つの段階をP-D-C-Aサイクルと呼ぶ。
- (4) 工程、原価、品質は、工事経営という1つの枠内で相互に関連性を持つものであり、例えば、一般的に、原価を安くすると、品質が良くなり工期も短くなる。

[問題 19] 「盛土管理」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 盛土部では、盛土を始める前に基盤を出し、盛土材の撒出し後あるいは転圧後の一層の厚さが管理できる丁張や標尺を設置してから施工していく。
- (2) 盛土の締固め管理の方法のうち、「品質規定方式」には、「基準試験の最大乾燥密度と最適含水比を利用する方法」と「空気間隙率または飽和度を施工含水比で規定する方法」があり、前者は、最適含水比が適用しにくい、自然含水比の高い粘性土に利用されることが多い。
- (3) 盛土の管理試験方法として、密度測定では砂置換法とR I法、強度測定ではポータブルコーンと現場C B Rがよく用いられる。
- (4) 規模が大きい盛土に於いて、所要の品質を得るのに必要な施工方法を検討・決定するために行われるのが「試験盛土」であり、実際に盛土に使用する材料を用いて現地にて施工の初期段階あるいは盛土材料が変わる場合に行う。

[問題 20] 「情報化施工」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) G N S SやT Sによる締固め回数管理に加えて、振動ローラに加速度計を取付け、地盤からの地盤反力を計測し、締まり具合を調べる。
- (2) 仕上げ整形では、設計図面データとG N S SやT Sで得た位置情報を照合し、ブレード等の作業装置を制御する。
- (3) マシンコントロールは、ディスプレイ等の指示に従って、作業装置をオペレータがマニュアルで操作し、マシンガイダンスでは、作業装置が自動制御される。
- (4) 敷均しの層厚管理に利用する場合は、日々利用する仕上げ高さのC A Dデータ（施工図）の作成が必要となる。

[問題 21] 「建設機械の管理（点検・整備・修理・補修）」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 労働安全衛生規則第170条において、「車両系建設機械を用いて作業を行うときは、その日の作業終了後に、ブレーキ及びクラッチの機能について点検を行わなければならない。」と定められている。
- (2) 定期整備（定期自主検査、特定自主検査）の点検表の保存期間は3年間である。
- (3) 計器類の作動及び示度の点検、エンジンの異常の有無の点検は、エンジン始動後に行う。
- (4) 機械日報は、建設機械の稼働・整備状況などを明らかにし、機械の管理状況を明確にする。また行った作業内容から今後の作業能力の算定、今後の整備予定、所要日数の判断、整備費用・運転経費の算出等、その利用範囲は広い。

[問題 2 2] 「建設機械等の燃料の補給・保存上の注意事項」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 燃料タンクへの給油は、燃料タンク中の空気に含まれている水分が夜間に凝縮して水となって燃料に入り込むため、朝の始動前に行うようにする。
- (2) ウォーターセパレータ（水分離器）を点検し、水及び沈殿物を抜く必要があるが、夜間に水分が沈殿するため、作業終了後に行うのが効果的である。
- (3) 給油は、日中気温の上昇により燃料が膨張してオーバーフローすることを防ぐため、最低でも燃料タンクの容量に対し 5 % 程度の余裕を取った方が良い。
- (4) 燃料フィルタの交換は、必ずフィルタに燃料を満たした状態で行う。

[問題 2 3] 「工程管理」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 機械土工の工程進捗は、運搬土量でとらえるのが基本である。日々の生産管理（土量管理）では、運搬回数の集計で概算土量を把握し、月次の出来形測量で出来形の確定を行い誤差の補正を行う。
- (2) 土量管理グラフは、運搬回数を記録するものであるが、運搬時刻の記録があれば、サイクルタイムの分析ができ、作業改善にも利用できる。
- (3) 工事工程が予定通り進んでいるか、今後の見通しはどうか、もっと順調に工事を進めるためにはどうしたらよいか、などを相談したり、作業者間の調整をしたりするのが工程打合せである。工事の規模や期間などによっても多少の違いはあるが、概ね月間工程打合せ、週間工程打合せ、日々工程打合せの 3 種類になる。
- (4) 工程曲線（S カーブ）は、予定と実績を累計曲線で比較できる出来高管理には向いているが、工種毎の日程等が不明なので、バーチャートに併記して管理することが一般的である。

[問題 2 4] 「原価管理」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 損益分岐点は、「これ以上の施工出来高を上げると、その工事は赤字になる。」という目安になる。
- (2) 施工速度により原価は変わるが、原価が最も高くなる施工速度が、最適な経済速度である。
- (3) 原価は、施工量増減の影響が無い変動費と、施工量の増減に伴って変動する固定費から構成される。
- (4) 施工途中の段階で、実績原価と実行予算の差が大きい場合は予定通り順調に施工できていると考えられるが、実績原価が実行予算を大きく上回っている場合は、実行予算の歩掛等に違算の可能性があり、早急に残工事予算の見直しが必要である。

[問題 2 5] 「建設現場入場時の教育」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 新規入場者教育は、労働安全衛生法において、「実施することが望ましい。」こととされているものである。
- (2) 実務経験 10 年以上の熟練者が従来と同じ様な作業を行う場合は、その現場が初めてであっても、その者に対する新規入場者教育は不要である。
- (3) 新規入場者教育は、送り出し教育の時間をなるべく短縮するために行う。
- (4) 新規入場者教育では、作業者の知識・技能・経験・健康状態・通勤経路等、適正な配置をするうえで必要な事項についても確認する。

[問題 2 6] 「労働災害発生時の措置」に関する次の (ア) ～ (ウ) の記述うち、**適切な記述はいくつあるか**。

- (ア) 現場責任者は、当該労働災害にかかる目撃者・現認者の確保に努めることが必要である。
- (イ) 災害発生現場の場所や施設は、二次災害を防止し、仕事を早期に再開するためにも、一刻も早く、整理・処分した方が良い。
- (ウ) 作業者が負傷した場合、不正確な応急手当は症状を悪化させる場合もあるので、いかなる場合も、医師以外の者が応急手当をすべきではない。

- (1) 適切な記述はない
- (2) 1 つ
- (3) 2 つ
- (4) 3 つ

[問題 27] 「建設工事の騒音・振動対策」に関する次の記述中の、**(ア)～(オ)**に当てはまる語句の組合せとして、適切なものはどれか。

建設工事の騒音、振動対策には発生源での防止対策と伝搬経路での防止対策がある。発生源での防止対策には低騒音、低振動の工法、機種を選定があるが、機械の形式別では、**(ア)**より**(イ)**、**(ウ)**より**(エ)**が低騒音・低振動である。
定置式機械は、建屋を設けることにより防音が可能となる。防音効果は、壁が音を遮断する能力と室内の吸音力により決まる。一般的には、壁の単位面積当たりの質量が**(オ)**なると遮音効果が大きくなるが、建屋の防音効果は遮断能力の最も小さい壁面に支配される。

- (1) (ア) 空気式 (イ) 油圧式 (ウ) クローラ式 (エ) ホイール式 (オ) 大きく
- (2) (ア) 油圧式 (イ) 空気式 (ウ) ホイール式 (エ) クローラ式 (オ) 大きく
- (3) (ア) 空気式 (イ) 油圧式 (ウ) クローラ式 (エ) ホイール式 (オ) 小さく
- (4) (ア) 油圧式 (イ) 空気式 (ウ) ホイール式 (エ) クローラ式 (オ) 小さく

[問題 28] 「労働災害が発生した場合に、事業者等に対し追及される責任」に関する次の記述中の、**(ア)～(ウ)**に当てはまる語句を、語群A～Dから選んだものの組合せとして適切なものはどれか。

作業者の故意又は過失により災害が発生し他人を被災させた場合、その作業者の使用者等は**(ア)**により損害賠償責任を負う。一方、現場の職長等が労働安全衛生法違反となる行為を行った場合は、行為者が罰せられるだけでなく、所属する企業にも**(イ)**により罰則が課せられる。

労働契約上、使用者には安全配慮義務が課せられているが、この義務は**(ウ)**

- 語群
- A 労働安全衛生法に規定する両罰規定
 - B 民事責任としての使用者責任
 - C 単に法令を守っていただけでは、義務を果たしたことはない。
 - D 法令を守ってさえいれば、義務を果たしたことになる。

- (1) (ア) B (イ) A (ウ) C
- (2) (ア) A (イ) B (ウ) C
- (3) (ア) A (イ) B (ウ) D
- (4) (ア) B (イ) A (ウ) D

[問題 29] 「建設機械の運転に係る法令等による制限」に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 建設機械の運転技能講習を修了した者は、道路交通法に規定する運転免許証の有無に拘わらず、当該建設機械を公道上で運転する（走行させる）ことが可能となる。
- (2) 労働安全衛生法に定める「運転技能講習」の修了が運転するための要件となっている建設機械を、無資格者に運転させた場合は罰則が科せられるが、その基準に満たない建設機械を、労働安全衛生法に定める「特別教育」を行わずに運転させても罰則が科されることはない。
- (3) 吊上荷重 5 トン以上の移動式クレーンを運転するためには、移動式クレーン運転士免許の取得が必要である。
- (4) 2 級建設機械施工管理技士の資格を取得すれば、労働安全衛生法に定める各種建設機械の運転技能講習の全部が免除される。

[問題 30] 「職場におけるパワーハラスメント」に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

なお、「職場におけるパワーハラスメント」とは、職場に於いて行われる、「優越的な関係を背景」とした言動であって、「業務上必要かつ相当な範囲を超えた」ものにより、「労働者の就業環境が害される」ものをいう。

- (1) 「職場におけるパワーハラスメント」に起因する問題としては、労働者の意欲の低下などによる職場環境の悪化や職場全体の生産性の低下、労働者の健康状態の悪化、労働者の休職や退職に繋がり得ること等が考えられる。
- (2) 「優越的な関係を背景」とした言動とは、当該言動を受ける者が行為者に対し抵抗又は拒絶できない関係を背景として行われるものを指し、職場の地位が上位の者による言動に限られ、同僚又は部下による言動は含まれない。
- (3) 客観的に見て、業務上必要かつ相当な範囲で行われる適正な業務指示や指導は、パワーハラスメントには該当しない。
- (4) 「労働者の就業環境が害される」かどうかの判断に当たっては、同様の状況で当該言動を受けた場合に、社会一般の労働者が、就業する上で看過できない程度の支障が生じたと感じるような言動であるかを基準とすることが適当である。